

師友道友の活動を綴る善行伝承誌

第0079号

2023.3月号

NPO法人福岡実践人

令和五年

「すべて最上なるものは、一步を誤ると中間には留まり得ないで最下に転落する」とは、げに至深の真理というべし。

森信三先生一語千鈞より

生 死



山 山 又

又

再生の題字（森畑彦様提供）は、森信三先生の直筆です。

中・高生のための「人間の生き方」

森 信三先生 講述

― 人間学 小門 一

五場のキヨメとしての「清掃」

前章においては、人間として守るべき三大きまりについて申しましたが、これは、ひとり家庭内のみでなく、学校においてもそのままではまるわけで、学校の先生方へ、朝のあいさつを自分の方から先にすること、また先生から呼ばれたら必ず「ハイ」と返事をすることは、今さら申すまでもないことです。

かつてわたくしは、広く全国各地の学校に招かれて、先生方や生徒さんたちにお話をしてきたのですが、朝その学校に近づいて、生徒さんたちに出会い、そこから校門を入つて玄関まで行くころには、もうその学校の教育が、どの程度かということが、まるでに香でもかぐように、しぜんと見当がつくのであります。では、どうしてそれが分かるかと申しますと、それは生徒さんたちのあいさつのしぐりに注意しますと、大たいの見当は狂わぬといつてよいのであります。

それから、もう一つ「整理・清掃」のあり方が、外来者には何よりよく眼につくものであります。その学校の教育がどの程度にゆきとどいているか、その大方がよくわかるのであります。もつともこれは、何も学校だけに限られたことではなくて、皆さんの家庭についてもいわれることで、一たび玄関に立つと、その履物や置き物等によつてもある程度わかるものなのであります。そしてこれは、その他の公共の施設や会社などにおいてのみならず、社会からさらには国全体の現状までも察せられるものなのです。わたくしは、外国旅行者からのみやげ話としてよくおたずねしたのですが、その国の公園なり駅なりの「紙クズの有無についてよくお聞きしたものであります。そして最近の話では、美術の都バリーでさえも紙屑が見られるようになったとのこと。ということは、それだけ人々の心がゆる

んで来たせいでしょう。

話は学校のことにもどりますが、教育の場である学校におきましても、紙クズが落ちていたり、雑草が生えておるようでは、これは論外と申してよいでしょう。わたくしは、かつて神戸大学に、七年間奉職いたしました。その点、わたくしが勤めたる廊下で紙屑をみつけたら、必ず拾いつづけました。その点、わたくしが勤めておりました海星女子大は、カトリック系の学校で、ただの一度もゴミを見つけたことはなく、ただ校門前の道で時に拾う程度でした。

ところでこの「清掃」ということは、われわれ日本民族の伝統たる神道の浄め・祓に通ずるものであります。皆さんも「存じの通り伊勢神宮の神域が何よりもこの象徴と申してよいでしょう。ところでこの清掃ということは、ひとり場を清める役目を果たすものなのであります。

ところがこの点については、外国ではこの「清掃」観念は、公共心から発しているようであります。われわれの学校、われわれの公園、われわれの施というような気持ちからして、ゴミを落とさないでキレイにするという考が、一般によく行きわたっているようであります。随つてこの公共心というものについては、われわれ日本人は、今後大いに学ばねばならぬと思つてあります。それというのも近ごろの日本人の意識調査によつて、公共の欠徐が大へん問題になっているわけで、われわれ日本人には今後はどうした運命共同体的な意識が、今後大いに磨かねばならぬのであります。

それについても、皆さん方の年代においては、学校のきまりとか、規とか申しますと、人によつては抵抗を感じる人もあるようですが、しかしこれは自我意識の

実践人福岡仁風読書会 第73回 2月11日(土)

場所：仁風庵

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます)

(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

目覚めの顕著な年ごろとして、一面ムリからぬ事と思われなくてもありませ
ん。しかしもう少し冷静に、広い立場にたつて考えれば、規則とかきまりという
ものが、いかに集団生活にとって必要欠くべからずものであるかが、おわかりにな
ると思うのであります。例えば、学校としては、服装や髪型や持ち物の規制な
ども、まさに当然すぎると思われれるのですが、いかがでしょうか。

なぜなら、「あいさつ」や「ハイ」の返事、そして「服装」「髪型」「持ち物」等は、すべ
て統一のある組織だった集団を形成するための土台ともいえるからであります。
そしてそれらは、いずれも「人格」とか「人がら」の表現でないものはないからで
す。前に申した「清掃」のいかんによって家・学校・会社・ひいては社会・国家まで判
断されるようなものだからです。

ですから、わたしたちの学校ぼくたちの学校として、学校の校風を重んじるた
めにも、またひるがえつて、皆さん方自身のためにも、決められたきまりは必ず
守る人間になつて頂きたいと思ひます。

皆さん方の一人ひとりには、まことにかけがえない大事な生命であり、二度と
ない人生を生きておられるわけです。そしてお互いにやり直しのきかない一日一
日を生きているわけであります。それにしても長い人生のうちには、山あり谷あ
り川ありで、決して得意満帆の時ばかりではなくて、失望落胆、自信喪失の時も
ありましようが、しかしそうした時こそ腰骨をたて直し、日常生活を引きしめ
る決意を要する人生の大事な岐れ路なのであります。「やけ」などおこすのは、
毎日の白紙の一ページを、自分自身で汚すのと同様で、結局自らの運命を投げ
棄てるものと云えましよう。

朝顔のはな

岡本大無

この頃のわが清しきや起きいでて先ず朝顔の花に対する

今しがたつぼみてありし朝顔ははや開きたれ庭はける間に

下駄箱のうえにも置いて出で入りに涼しき花の朝顔の鉢

南瓜づるひかれしあとに残りたる朝顔咲きつ小さな花

わが植ゑし鉢の朝顔さきぬ一輪ふかき青澗の色

すずやかに朝々をあさがほは思ひよこしま無くて咲く花

日毎々々咲きし朝顔たまたまに咲かぬ日のあり何かさびしき

水滴に活けしあさがほ藍ふかきこの一りんの単純を愛す

暑き日のけふも暮れぬと朝顔に水をやりつつ思ふこと無し

朝顔の蔓葉おとろへしかすがに花さく看れば泣きたくぞある

蔓枯れて尚ひとつ咲く朝顔の花の意欲におどろく吾れは

生きの身をなげかふ人ら朝がほの花に対して愧ぢざらめやも

時を守り
場を清め
礼を正す
不尽

第一章 人の行かない道を行く

日本は本当に反映しているのか

世相はすべて人の心の繁栄



美しい姿や言葉、優しい仕草は、その人を活き活きとさせるだけではなく、周囲の人々の心までも潤す力を持っています。背筋を伸ばし、姿勢を正している姿そのものが周囲を浄化させるのです。残念なことに、このような人に会うことが少なくなりました。

反対に、日本はいま、普段口にするのが憚られるような乱れた汚い言葉が氾濫するようになりました。街頭や乗り物の中にあつては、聞きたくなくても聞かざるを得ず、心が暗く沈んでしまいません。

美しい姿や言葉、凛とした姿勢が周りの人々の心を潤すのとは反対に、汚い言葉や卑しい仕草、横着で醜い態度が人々の心を暗くし、苛立たせるのはいうまでもありません。言葉と態度・表情・仕草は一連のものであり、すべてその人の心から生じています。

人の心を穏やかにし、思いやりのある優しい心にするのは、子どもにとつては親の義務であり、会社にあつては、社員にとつて経営者の欠かせない責務であります。いまの日本では、家庭にあつては親が、会社においては経営者が、社会ではリーダーがこの責務を怠っていないか、まったく気づいていないかのどちらかであり、そのために起こる事件は目を覆うばかりです。

これらのことは、企業が自社の繁栄にのみ目を奪われていて、地球の資源を貪り尽くすだけでなく、多くの人々の心を奪い、人間らしさを失わせたことから生じているものばかりです。

「信じられない」、「このようなことがあつてはならない」などが、何かが起こるたびに関係者の口から出る言葉が空しく聞こえます。しかし、すべてのことは必然として生じたことであり、偶発的なことは一つもありません。すべてはおこるべくして起きています。

一人ひとりが自分の心のなかに、

自立というものをしっかりと打ち立てていけば、

周囲の事情に振り回されて困ることは何一つない。

日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 351 回

博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前 6 時 15 分～

【第一回】平成 5 年 12 月 8 日開催

福岡実践人・JR 九州博多駅
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 ハウスメイト



第351回 博多駅早朝清掃
2月8日(水曜日)

30年目のスタート！
68名参加



第351回目、参加者総勢68名で活動行いました。コロナ禍で参加者の減少がみられていた令和4年でしたが、年明けより徐々に参加者増加の傾向がみられているようです。卒業・入学・入社など春を迎える準備を博多駅でも始まっています。駅長さんも副駅長さんも今年の春は移動かなあ！？JR九州のよき文化の継承もしっかり受け継がれることでしょう！！

けさえもん 拝



博多駅の夜明けの顔

2023/02/08



精華女子が増加

2023/02/08



相変わらず減らないのは、たばこの吸い殻ですね。

2023/02/08

【ちょっといい話】

会場の準備を終えて、記帳台で精華女子の一番目に『岡部』と書いた子に『12回も参加してくれているんだね！』と声をかけると、『はい、今日がこれに書ける最後の日となりました。』

『何年生？』

『三年生です！』

『卒業だね！進学するの？』

『はい、博多駅とは反対方向です』

『長い間ありがとうございます！』

後ろに控えていた小柄な女性を先生と思った私は、

『どっちが先生かわかりませんか？』

すると、

『母なんです！』

『娘が八の日清掃と言って、博多駅のゴミ拾いをしていると聞いていました。』

『娘が大学進学でこの活動にも参加できなくなるので、娘に誘われて来ました』

と、話してくださいました。

早朝清掃は、家族の心まできれいにすることができる、そんな力を持っている。

『お母さん！いいお子さんをもって幸せですね！』

『はい、お掃除のおかげだここにきてそう思いました。』『ありがとうございます』

何と素敵な母子なんでしょう！

帆足先生が言っておられた【博多駅早朝清掃は教育の延長】とは、こういうことだったのだと思います。



松尾副駅長

2023/02/08

令和5年3月1日発行

～古き良き時代の日本再生～

とんぼろ

===心を耕し、生を拓く===



第一回 とんぼろ海掃隊海岸清掃in長目の浜 R5.2.18

令和5年(2023) 3月号 NO.004

古き良き時代の日本再生をこしき島から

NPO法人楽農人



ニンニクの成長過程

2023/02/18



玉ねぎの成長過程



里中学校サツマイモ圃場

2023/02/17

こしき島里中学校の生徒たちは、卒業すると島を離れます。高校進学のため親元を離れ独立します。島では、『島立ち』といい別れを惜しみ祝います。中学校行事として、子どもたちが授業の一環でサツマイモを栽培し、コメを集め米麴を作り、自らの手で焼酎造りを経験します。卒業式には出来上がった焼酎『島立ち』を親に手渡し二十歳の成人式に戻った際、タイムカプセルの焼酎を酌み交わします。

そんなサツマイモ作りをこの圃場で、中学生たちに楽農人が少しばかりお手伝いさせていただくことになりました。基腐れ病がこしき島でも蔓延し収穫量が激減する中、少しでも役に立てばと思います。

楽農人を待ちわびる耕作放棄地

去年まで島を訪れる際は、観光地として案内しても喜ばれる見事な石積の段々畑でした。数年前より体調を崩された農家さんが断念され、今年一月この世を去りました。二十年前、ともにこの島の再生を願い、草を刈り竹を切り水路の整備をしたおじさんでした。81歳、まだまだ元気で島の農業のよき指導者として導いてほしい方でした。

「わたしにらせてください！」と、この地に立ちました。

R5.2.17



2023/02/17

とんぼろ海岸清掃／薩摩川内市 in長目の浜

第一回長目の浜海岸清掃 《こしきかのこゆり倶楽部／トンボロ海掃隊》



2月18日のトンボロ海掃隊『長目の浜海岸清掃』

東京大阪福岡からの道友と島民、中学校教頭他職員、小学校長と想定以上の参加者でした。赴任後初めて海岸に来た、こんなにもゴミがあるとは思わなかった。

この島に住んで二十年経つが初めて海岸に来てみた、遠くから観るのと違ってビックリ!!

子供たちに言う前に自分で掃除出来て良かった。(女性教諭)など、スタート前と一時間後の気持ちの違いを熱く語って頂きました。利会長さんからは、ゴミは無くならないが、一つ拾えばひとつだけ綺麗になる! 継続してください。と励ましの言葉を頂きました。

参加者の皆さんは、海岸の足下の石に足を取られたり、イバラに手足を刺されながらペットボトルや魚網、ロープを引きずりだし潮風に汗だくになりながらのゴミ拾いでした。

交流会では、足がパンパン、スクワットしながらゴミ拾いした感じ。と、みなさんなほどと頷き合いました。

また、各地で行われる清掃活動同様に継続できる第一歩がスタート出来たことを実感しました。

参加頂いたみなさん、応援頂いたこしき島再生ご支援頂いている方々ありがとうございました。

とんぼろ海掃隊 世話人：楽農人けさえもん拝





楽農人放浪記 003

三重県多気郡明和町

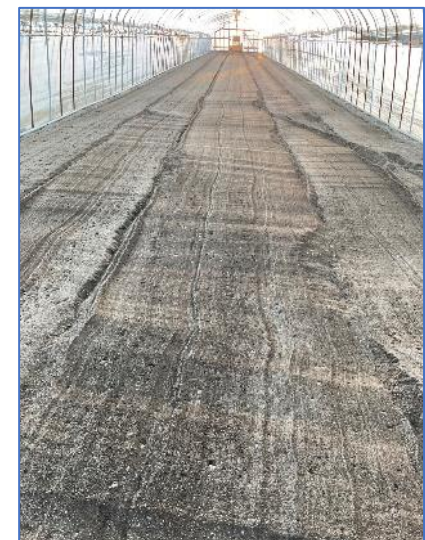
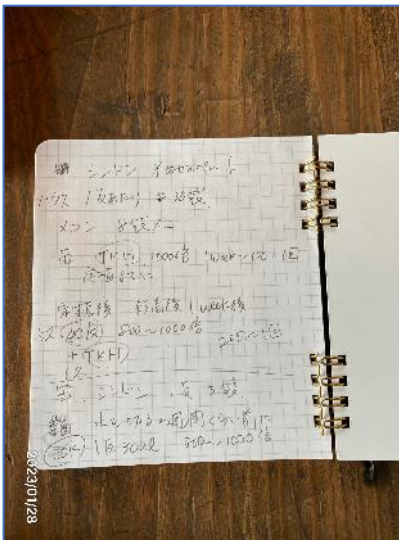
NPO:法人楽農人



農家さんの圃場を訪問する前に時間があったので、伊勢神宮をお参りさせていただきました。



化成肥料と除草剤によって疲弊しきった土壌、見るも無残な状況を目の当たりにしました。／楽農人



メロンの苗／定植直後

楽農人の説明を熱心にメモされました▶ その後の取り組み



日本企画の利社長さんにわが大楠イチゴ農産のイチゴハウスに立ち寄っていただきました。日本企画は会社を挙げて自然農に取り組むIT企業、大楠菌を培養して出来合った心土んの開発話もさせていただきました。帰りには、大楠イチゴをお買い上げいただき生産者との歓談も喜んで下さいました。



こしき島の一つの名産づくりへの挑戦として、パイナップルを仁風庵で試験栽培しています。

寒さをしのぐ手段として、土壌改良材『モンガラン』の発酵熱で土の温度を温める。土の温度が一度上がれば作物には常夏に感じるはず。一月の雪にも耐えしっかりと実を熟成し続けています。乞うご期待。



鹿子百合も芽を出してきました



	3月			4月				5月	6月		7月		
日	8	18	25	8	15	22	29	8	20	8	17	8	15
曜	水	土	土	土	土	土	土	月	土	木	土	土	土
行事活動名	博多駅早朝清掃 第352回	長目の浜海岸清掃	熊井ふあーむ 農業M	博多駅早朝清掃 第353回	長目の浜海岸清掃	熊井ふあーむ 農業M	長目の浜海岸清掃	博多駅早朝清掃 第352回	長目の浜海岸清掃	博多駅早朝清掃 第352回	長目の浜海岸清掃	博多駅早朝清掃 第352回	長目の浜海岸清掃
場所	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	福岡県鞍手町	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	福岡県鞍手町	鹿児島県薩摩川内市	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市
開始時刻	6時15分	6時30分	14時	6時15分	6時30分	14時	6時30分	6時15分	6時30分	6時15分	6時30分	6時15分	6時30分
運営団体	福岡清爽クラブ	楽農人 トンボ口海掃隊	楽農人 熊井ふあーむ	福岡清爽クラブ	楽農人 トンボ口海掃隊	楽農人 熊井ふあーむ	楽農人 トンボ口海掃隊	福岡清爽クラブ	楽農人 トンボ口海掃隊	福岡清爽クラブ	楽農人 トンボ口海掃隊	福岡清爽クラブ	楽農人 トンボ口海掃隊

再生三月号

令和五年三月八日発行 (毎月一回八日発行)

創刊 平成二十八年九月一日

発行人 富吉製袋右衛門

発行人(編集人) 富吉 製袋右衛門

◇NPO法人福岡実践人 福岡清爽クラブ

◇福岡仁風読書会

◇NPO法人楽農人 トンボ口海掃隊

〈合同事務局〉 〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 《仁風庵》

TEL 092-931-8155 FAX 092-931-8120

E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。